

〔学会印象記〕

第9回障害者ヘルスフィットネス国際会議

牟田口 辰 己・大 内 進

第9回障害者ヘルスフィットネス国際会議 (9th International Symposium on Adapted Physical Activity) がアジアで初めて、8月4日から7日までパシフィコ横浜と横浜ラポールの二つの会場で開催された。参加者は約600名、海外21ヵ国から約120名が参加した。

この会議は、国際障害者ヘルスフィットネス連盟 (IFAPA: International Federation for Adapted Physical Activity) が2年ごとに開く国際シンポジウムで、1977年カナダのケベックを第1回に、ブリュッセル (ベルギー)、ニューオーリンズ (アメリカ)、ロンドン (イギリス)、トロント (カナダ)、ブリスベン (オーストラリア)、ベルリン (ドイツ)、マイアミ (アメリカ) で開催されてきた。IFAPAは、体育・スポーツなどの身体活動を通して、障害者、高齢者など心身にハンディキャップを持つ人々の健康、体力を維持、増進するため、基礎的研究、応用的研究、実践的研究の推進とその国際交流を深める目的のもとに設立された団体である。本国際会議の主催は、アジア障害者体育・スポーツ学会 (Asian Society for Adapted Physical Education and Exercise: ASAPE、会長矢部京之助名古屋大学教授) であり、この学会は、ISAPAの趣旨に基づき、アジア地域の障害者の体育・スポーツに関する科学的な研究の進歩と発展を図る目的で1986年に結成された。

適度な運動を繰り返すとからだの機能が向上することは、健常者に限ったことではなく、障害を持つ人々 (高齢者を含む) にも当てはまる。また、障害を持つ人を対象にした体育・スポーツの教育・研究は、学際的な分野であり、理論と実践を切り離して考えることはできない。理論家と実践家、あるいは基礎研究者と実践研究者といった枠組みを取り除くことによって、障害者の幸福につながる教育・研究は進展し、障害を持つ人の可能性が拓かれることになるのであろう。そうした観点から、本会議では「限らない可能性を求めて (Stepping forward beyond barriers through

physical activity)」というテーマが掲げられた。開催目的は、①障害を持つ人々 (含む高齢者) の健康・体力づくりのプログラム作成に関する研究の発展、②身体運動に関する基礎研究と実践研究の成果を、障害を持つ人々 (含む高齢者) にも提供すること、③スポーツを通して障害を持つ人々 (含む高齢者) への理解と認識を高め、スポーツの環境づくりを提言することの3点であった。

プログラムは、口頭発表81題、VTR実践発表55題、ポスター発表108題の他に、特別企画として、特別講演2題、キーノート講演6題、教育講演2題、ミニシンポジウム3題、研究-実躍フォーラム7題、実技研修会 (ワークショップ) 6題が企画されていた。特別企画を表1に示す。

本大会名誉総裁である三笠宮寛仁親王殿下の特別講演「障害者のスポーツ」のほかに、「身体運動の心理・生理学的アプローチ」(ボネ教授、フランス)、「歴史的絵画からみた障害者像」(篠田達明先生、愛知県心身障害者コロニー) の二つの教育講演をはじめ、そのほかの特別企画は、心身に障害を持つ子どもたちの教育に携わるものに示唆を与えてくれた。「知的障害を持つ人々は、すべてのゲームやスポーツに参加する機会を与えられるべきである。一部は競技的スポーツにも参加できるようにすべきである」と述べたドル・テッパー教授 (ドイツ) の主張には共感を覚え、APA (Adapted Physical Activity) は個人差、適応、創造的理論を基に発展してきており、これからの教育は障害の程度や種類の観点からではなく、個人差に力点を置いて指導することが大切だ」と述べたシェリル教授 (米国) の主張に対して、これからの障害児教育のあり方を見ることができた。締めくくりに特別講演を行ったのがIFAPA会長でブリュッセル自由大学のポッター教授である。[21世紀の障害者ヘルスフィットネス] と題する講演で、「APAは障害者と呼ばれる人々だけでなく、健常者も含めて独特のニーズを持っている人々の身体運動やスポーツに関与しており、個人と身体との関わりがこれからの研究課題である」と展望したことに、APAの概念の広さがうかがえた。ほ

表1 特 別 企 画

Special Lectures

- (1) Sport for the Disabled (His Imperial Highness Prince Tomohito of Mikasa)
- (2) Adated Physical Activity at Dawn of the 21th Century (De Potter, J. -C.)

Keynote Speeches

- (1) Adapted Physical Education Program for Mentally Retarded Children (Doll-Tepper, G.)
- (2) Development of Chair Ski Equipment and Expansion of Chair Ski Movement in Japan (Tanaka, O.)
- (3) Adapted Physical Activity Pedagogy : Principles, Practices, and Creativity (Sherrill, C.)
- (4) Legislative Influences on Adapted Physical Activity and Sports in U. S. A. (Winnick, J. P.)
- (5) Normal and Abnormal Development of Postural Control in Children (Woollacott, M. H.)
- (6) IPC-The First Quadrenium (1989-1993) (Steadward, R. D.)

Tutorial Lectures

- (1) A Psycho-Physiological Approach for Physical Activity (Bonnet, M.)
- (2) The Handicapped as Depicted in the Art of Japan (Shinoda, T.)

Mini-Symposia

Mini-Symposim A : Social Aspects in Adapted Physical Activity

- (1) Oita International Wheelchair Marathon Supported by Communities (Hatada, K.)
- (2) Rehabilitation Engineering for the Disabled in China and Shanghai Jiao Tong University (Gao, Z., -H.)
- (3) Adapted Physical Activity and Normalization (DePauw, K. P.)

Mini-Symposim B : Leadership Training in Adapted Physical Activity

- (1) The Leadership Training Program for Adapted Physical Educatoin and Exercise in Korea (Hong, Y. -J.)
- (2) The European Master's Degree in Adapted Physical Activity : Training Program and Research Projects (Van Coppenolle, H.)
- (3) Leadership Training in Adapted Physical Education (Sherrill, C.)

Mini-Symposim C : Adapted Physical Activity for the Elderly

- (1) Senior Citizen Health Management (Shimo, R.)
- (2) Exercise and Sports for the Elderly (Iwaoka, K.)
- (3) Impacts of Active Life Style on Health Perception of Dependent Elderlys Women (Drouin, D.)

Workshops

Theories of Physical Training

- (1) Effects of Different Training Programs on Force Velocity Relation and Power Output in Human Muscles (Kaneko, M.)
- (2) Effects of Endurance Training with Respect to Maximam Oxygen Uptake (Miyamura, M.)
- (3) Physiological and Practical Basis of Muscular Endurance Gain (Taguchi, S.)
- (4) Muscle Strength Training (Fukunaga, T.)
- (5) Body Composition Alterations with Exercise Training (Kitagawa, K.)

Movement Education (Kiphard, E. L.)

Dance Therapy (Miyahara, M.)

Wheelchair Sports (Strohkendle, H.)

Aquatic Exercise (Egami, J. and Eguchi, H.)

Wheelchair Dance (Krombholz, G.)

Research-Practice Forum

Adapted Physical Activity for the Mentally Retarded

Adapted Physical Activity for the Health Impaired

Adapted Physical Activity for the Deaf

Issues and Problems of Administration of Sports Centers for the Disabled

Adapted Physical Activity in Rehabilitation

Adapted Physical Activity for the Visually Impaired

Adapted Physical Activity for the Severely Handicapped

かの教育講演やキーノート講演を聴くにつれて、養護・訓練の主要な柱である身体の健康、心理的適応、環境の認知、運動・動作、意思の伝達が、APAの概念と共通した領域にあることが理解できた。

VTR実践発表は、障害者の体育やスポーツ、レクリエーション活動についての実践内容を15分以内にまとめたものである。発表された作品を対象に、この領域の理解と発展を推進する目的でコンテストが行われた。作品は、科学的研究、スポーツ活動・運動プログラム、ドキュメントの3部門に分けて審査され、閉会式で優秀作品が表彰された。いずれの内容も優れており、撮影や編集などの技術のレベルは高いものがあった。このVTRによる発表は、指導方法が具体的に理解できるので、今後わが国でもこの発表方法を大いに取り入れてほしいと思う。

横浜ラポールを会場にして開かれた実技研修会(ワークショップ)は、主に現場の指導者を対象に、「トレーニング理論」、「ムーブメント教育」、「ダンスセラピー」、「車椅子スポーツ」、「水遊び、水泳」、「車椅子ダンス」のテーマで開かれ、国内外から多数の参加者を集めていた。参加者にはたいへん好評であった。

筆者らは、研究発表のポスター発表部門で、「A kinematic Analysis of Touch Technique with a Long Cane during a Quiet Stance」(牟田口辰己・中田英雄)と「Characteristics of Congenitally Blind Children's Free Play Using Various Objects」(大内進)について発表した。ポスター発表を初めて経験することに加えて、公式用語が英語であったので、準備段階から苦労した。3時間のポスター掲示時間があり、終わりの1時間が討論に当てられた。この時間は、テ-

マごとに10題程度を1グループとし、それぞれのグループに司会者がつき英語で討論を行った。司会者は高名な方ばかりで、牟田口のグループは、オレゴン大学のウーラコット教授、大内のグループは、ブリュッセル自由大学のポッター教授であった。二人の司会の先生達は、英語の不得意な私たちにゆっくり話しかけ、私たちの主張を熱心に聞いてくれた。このやりとりはたいへん勉強になった。また、筆者らはポスターを白黒の文字で作成したが、外国の研究者は文字に緑、青などの色を使い、資料の配置も工夫されていた。ポスター発表では色彩の使い方も重要であると感じた。

筆者らのほかに本学関係者の発表は、柿沢敏文・中田英雄「Dynamic Balancing Ability of Visually Impaired Children」、増本正太郎「Dynamic Feature of Cerebellar Ataxia in Leg Tracking Test」、最勝寺久和・中田英雄「Effect of Endurance Training for the Visually Impaired」、加島一恵・池田由紀江「Analysis of Speech and Behavior of Mentally Retarded Children During Play Cooking」、池田由紀江・金容漢「A Research on Notice of Diagnose of Down Syndrome」であった。

さよならパーティーで演じられたドイツの車椅子ダンスチームの数々の演技は、車椅子の動きとパートナーの動きが一体となり、見る者を圧倒した。あたかも車椅子がインターフェースとなり、障害を持つ人とそうでない人を結ぶ役割を演じているかのように思われた。

第10回ISAPAは、1995年5月ノルウェーのオロスで開催の予定である。